

桜蔭俳話会 第九十四回通信俳句結果

(平成二十二年夏 選句八句)

4点① 晝に一日の命叫ぶ蝉	幸枝	4点① 晝に一日の命叫ぶ蝉	幸枝
9点① 一病もしぼし忘れて遠花火	与史	5点 逢へぬまま日焼も褪めてしまひけり 眞実	眞実
3点 足踏みのミンも主や感涼し	幸	5点 檜ヶ岳映す池あり夏の雲	ヤエ子
1点 蕎麦とせむ見つけし朝の茗荷の子	秀一	3点① 葉に留まり黒きトリスの揚羽蝶	佳史
* 舟虫の百の目動く潮溜り	ゆき乃	11点① 指間から葉こぼる大暑かな	眞実
4点① 冷蔵庫ごとりと声上げ氷生む	梅乃	9点 着るものに構ひてをれぬ暑さかな	深水
3点① 柔らかな拒絶四葩に雨の打つ	眞実	1点 汗じみの匂ひ速くて夏帽子	文枝
はげしかりくの字に子子伸び縮む	佳史	降りもせず肌にしっとり梅雨曇り	忠夫
夏便り吾娘ジプシーめくと寄越しけり 幸枝	幸枝	2点① 風に酔ふ向日葵たちのフラダンス	幸枝
5点 散る花火空の涙となりけり	守	7点② 天上の扉を開けて大花火	守
万緑の山道下る梅雨出水	忠夫	蠅乗る机に笑顔尽きぬ夜	美紀子
4点 遠花火この世の闇を照らしけり	梅乃	9点 大木を動かしてをり蝉時雨	眞勝
2点① 雷鳴や眠りこけたる児の笑顔	深水	4点① 空蝉のいのちの嵩と吹かれけり	佳史
7点② 老舗には老舗の器葛の花	幸	1点① 海面に光る飛魚母の笑み	美紀子
1点 お花畠小道の先にヒュッテあり	ヤエ子	10点 夕焼けや長居を詫びて帰りけり	深水
6点 門々に昭和の風と茄子の馬	文枝	11点③ 稲光高層ビルの立ち上る	眞勝
8点① 難聴の耳にも届け蝉の声	与史	1点 白シャツのアイロントぶ夕の風	ヤエ子
3点 屋上のトヤト熱せる驟雨かな	秀一	3点 寺裏はリスの領域古都の秋	ゆき乃
6点 魂の抜かれてゐたる昼寝覚む	梅乃		
3点 高原の風といへども炎天下	ゆき乃		
2点 早朝に子の声響く夏休み	美紀子		
さざ波を受け光をり睡蓮や	眞三		
6点 胸にだくセピアの写真夏帽子	文枝		
2点 太き樹を切るを見守る夏の夕	眞三		
10点② 鎮魂の山を揺らして大花火	守		
9点 新薬に命あづけて梅雨明る	与史		
2点 人知れず奮ももちて百日紅	眞三		
4点② 一ト夏の過ぎ行く気配遠花火	忠夫		
4点 病むころ掻きまはさる扇風機	秀一		

発表句でしたので集計から除外しました。

(注) 五句目「*舟虫の百の目動く潮溜まり」は既

得点順

十二点

- ③縮光高層ビルの立ち上る 野上 貞勝
- ①指間から棄こぼる大暑かな 武田 眞実

十点

- ②鎮魂の山を揺らして大花火 増田 守
- 夕焼や長居を詫びて帰りけり 瀬戸 深水

九点

- ①一病もしばし忘れて遠花火 平井 与史
- 新葉に命あづけて梅雨明くる 平井 与史

着るものに構ひてをれぬ暑さかな 瀬戸 深水

大木を動かしており蝉時雨 野上 貞勝

八点

- ①難聴の耳にも届け蝉の声 平井 与史

七点

- ②老舗には老舗の器葛の花 稲葉 幸
- ②天上の扉を開けて大花火 増田 守

六点

門々に昭和の風と茄子の馬 安沢 文枝

魂の抜かれてゐたる昼寝覚む 小川名梅乃

胸にだくセピアの写真夏帽子 安沢 文枝

5点

散る花火空の涙となりけり 増田 守

逢へぬまま日焼も褪めてしまひけり 武田 眞実

檜ヶ岳映す池あり夏の雲 岩野やエ子